



巻頭言

【with & after コロナ特集】

一人一台の パソコンで 子どもを アクティブ・ラーナーに！

ICT環境の整備は、一人ひとりの子どもをアクティブ・ラーナーに育てるための道具立てと理解すべきです。

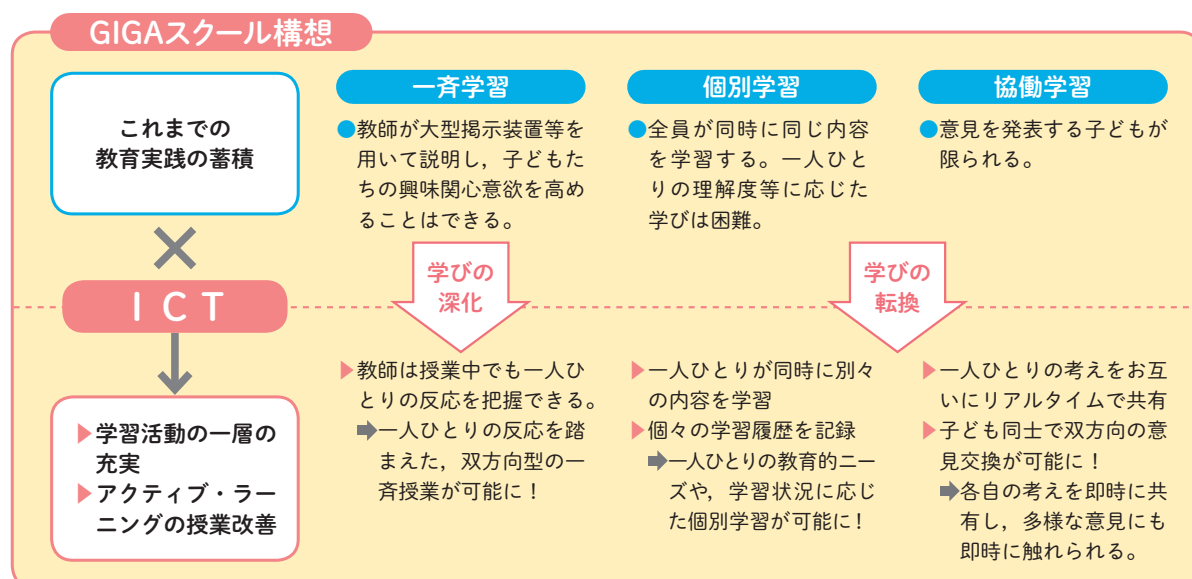


上智大学教授
(文部科学省教育課程部会委員)
奈須 正裕

学びを止めない最も抜本的で持続可能な方策

コロナ禍は学校にとって大きなピンチでしたが、思わぬ副産物もありました。その一つが ICT化の進展です。大幅に前倒しされたGIGA スクール構想により、一人一台のパソコンが届いた学校も多いでしょう。

ICT環境の整備はオンライン学習への備えという意味もありますが、より本質的には、一人ひとりの子どもをアクティブ・ラーナーに育てるための道具立てと理解すべきです。コロナ禍において学びを止めない最も抜本的で持続可能な方策は、いかなる状況下でも自らの判断で学び進められる存在へと、子どもを育てることなのです。



*文部科学省リーフレット「GIGAスクール構想の実現へ」を参考に作成

パソコンは文房具

ICTの活用という、何か従来とは違う特別な授業を新たに生み出す、個々の内容を指導する専用のソフトが必要などと考えがちですが、そうではありません。何より、それでは時折使う程度になり、いつまでたっても子どもがパソコンを使いこなせるようになりません。

大人にとって、今やパソコンは文房具や辞書ののような存在です。ならば子どもたちにも、汎用的な学習の道具として使わせていきましょう。たとえば、国語の時間に限らず、わからないことがあればすぐに国語辞典を出して調べることが習慣づける先生がいますが、同じことをパソコンで行えば、単なる言葉の意味をはるかに超えた豊かで個性的な学びが実現できます。



作文の本質は、文字を書くことではない

多くの大人は、パソコンをワープロとして最も長い時間使っています。文房具と考えれば当然ですが、ならば子どもたちにも同様に使わせればよいでしょう。

学校ではいまだに作文を手書きで行い、清書までさせていますが、ナンセンスです。以前、一文字の脱字に気付いた子どもが丁寧に書いた何行もの文字を消しゴムで消していたところ、原稿用紙が大きな音を立てて破れてしまい、すっかりやる気を喪失する場面に出会いましたが、こんなことをいつまで続ける気でしょうか。

作文の本質は文字を書くことではありません。伝えたいこと、表したいことにふさわしい論理や表現となるよう文章に様々な工夫を凝らすことであり、施した工夫の妥当性を慎重且つ多角的に吟味することです。作文に対するこの本質的な理解を促す意味でも、ある程度長い文章は、ローマ字の指導が始まる三年生からパソコンでの作成を基本にしたいものです。

ERASER

表現と思考の往還

国語の教科書では、説明文の読解に続いて学んだ形式やポイントを生かして文章を書く活動が位置づけられていますから、パソコンでの作文は、そこで使い始めるのが自然でしょう。最初こそ入力に時間がかかりますが、手書きと違い、一度入力した文字や文は訂正や推敲の際に消して書き直す必要がありません。このことに気付いた瞬間から、子どもたちは入力の手間を厭わなくなるから不思議です。さらに、清書はプリンタがやってくれ、誰でも綺麗に仕上がりますから、子どもは作文がどんどん好きになります。

社会科の地域学習のまとめで新聞を作る活動や理科の観察記録なども、徐々にワープロで書くようにしましょう。教師が基本の書式を作っておけば、子どもはわずかな文字を打ち込むだけで見事な出来栄になりますから、いよいよ文章を書くのが好きになります。また、写真やイラストも含めたトータルでの表現を工夫させることで、文章が果たす多様な

巻頭言【with & after コロナ特集】

役割への理解も深まります。

さらに、気付いたことや考えたことを、すぐにパソコンに打ち込むよう指導します。そして、時折振り返っては、自身の考えをまとめたり、発展させたりするようにするのです。自身の思考を的確に表現できるとともに、表現することで思考が深まっていく。こうして、パソコンは自律的な学習や思考の道具になっていくのです。



資料 1

ICT教育観の変換を！



資料 2

一人一台は、ワープロ利用から



おすすめの活動内容

- 【国語】説明文読解で学んだ形式やポイントを生かして作文させる。
- 【社会】調べ活動のまとめを作成させる。
- 【理科】観察日記を蓄積させる。
- 【その他】授業中に気が付いたことや考えたことを、その都度打ち込むようにさせる。



自宅で存分に使わせてこそ身につく操作技術

せっかくの一人一台のパソコンですから、自宅に持ち帰らせ、各自のペースや関心事で思う存分に使わせたいものです。操作技術の習熟や機能の理解も、「こんなことは出来ないの」といった目的的な活動の中でこそよく進みます。一斉に指導するより、効率的で着実でしょう。

持ち帰りに際し障壁になるのが、家庭のオンライン環境です。それを理由に持ち帰りを躊躇する自治体もあるようですが、ワープロ作業ならオフラインで出来ますし、さらに相当の時間を要するので、機器に馴染み様々な操作を身につけるのには好都合です。

持ち帰らせて壊れないかと心配する人がいますが、今のパソコンはそう簡単には壊れません。そもそもスペック的に何十年も先までは使えないのですから、届いたらすぐに、毎日使い倒す勢いで子どもに委ねるのが賢明です。そうして子どもが学習の道具として使いこなせるようになれば、次の予算取りの際にも地域の賛同が得られるでしょう。GIGAスクール構想は今回限りで今後は自治体次第でしょうから、このことは非常に重要です。

世界と交流するツール

もちろん、パソコンの真価はオンラインでこそ発揮されます。先に述べた国語辞典の要領で調べる活動もそうですが、さらに様々な人々との交流が、学びの可能性を桁違いに拡張します。これまでもゲストティーチャーから話を聞く、町に出てインタビューするなどの機会はありませんでしたが、パソコンはそこにあった物理的な限界のほとんどを取り除いてくれるでしょう。

ここでも、万事教師がお膳立てするのではなく、子どもが自らの必要感や関心に即して様々な人に連絡を取り、情報を得たり意見を聞いたりする機会を徐々に増やしていきたいものです。アポの取り方を指導したり、交流の状況を随時報告するなどの約束事を守らせたりすることは大切ですが、その上で子どもを信じて主導権を与えることにより、子どもの学びを計画し実施する力や多様な他者と関わる力は、飛躍的に向上していくでしょう。

資料 3

使い倒し

使いこなす！



自宅に持ち帰らせて、壊れてしまっは……。

家庭によって、インターネット環境は、まちまちだし……。



パソコンは簡単には壊れません！
ワープロ作業なら
オフラインでも可能です！

家では、自分のペース
でできて、嬉しい！

ワープロで早く文章を
打てるように練習だ！



まとめ

わからないことがあればすぐに調べる。気付いたことや考えたことがあればすぐに書きとめ、後で見返して考えを整理し、効果的な表現へと昇華させていく。学びを教室に閉ざすことなく、広い世界へ自らの意志と力で漕ぎ出していけるようになる。一人一台のパソコン

を学習の道具として日常的に使いこなす経験は、子どもの学習への構えやイメージを大きく変えていきます。

最大のコロナ対策は、子どもをアクティブ・ラーナーに育てることです。ようやく届いた一人一台のパソコンを、この目的に向けて上手に活用していきましょう。